

# オムロン株式会社 2022年度ESG説明会

## 質疑応答（サマリー）

（2023年3月8日）

### <山田社長就任期間の取り組み>

Q：企業価値を向上させるために意識してきたことは何か？

A：常に意識してきたことは中長期の視点をもつということ。10年後に向けて必要な投資を今やる、という思いをもって企業経営を行ってきた。ただし、様々なステークホルダーを踏まえバランスよく価値を高め、分配するという意識も必要。長期的にしっかりと価値創造できる企業でいられることが重要であり、今後も中長期の視点をもって取り組んでいく。

Q：次のCEOに託す、オムロンの今後の課題とは？

A：意思決定、実行、フィードバック、さらなる実行というサイクルを早く回す「ハイサイクルマネジメント」が課題。

小さなチャレンジを早く回して、大きなチャレンジに繋げていく仕組みをオムロンに導入したい。

ビジョンを達成するため、サイクルを早く回すことを根付かせることが重要であり、新CEOがやり切ってくれると思う。

### <ソリューションビジネス>

Q：オムロンの今後の方向性について教えてほしい。

A：モノ中心のビジネスからソリューション型のビジネスへと転換していく。お客様はセンサーやコントローラー、血压計等のモノが欲しいのではなく、それによって成し遂げられるソリューションを求めている。オムロンが設定した3つの社会的課題に対していかにソリューションを届けられるかがポイント。そのカギはデータであり、データを活用したソリューションの開発を進めていく。

### <人的創造性>

Q：人的創造性の進捗や付加価値増加に繋がる事例があれば教えてほしい。

A：今年度の人的創造性の進捗は、+2%の見通しであり、計画に対して順調に進捗。一方、人財投資が付加価値の増加につながるには時間が必要であることは留意すべき点。今年度は事業の「コト化」を進めるために必要な人財の獲得に注力し、ビジネスを形づくるアーキテクト人財や、データサイエンティストなどの採用を行った。

### <エネルギー生産性ソリューション>

Q：エネルギー生産性ソリューションに対するニーズや、同ソリューションの強みは何か？

A：製造業は、バリューチェーン全体で脱炭素に取り組むことが求められており、特に欧州を中心にビジネスを行う上での最低限の条件となっている。そのため多くの企業がエネルギー生産性ソリューションに関心を寄せてきている。

またこのソリューションにより自社工場でのエネルギー生産性が1.6倍向上した実績を有しており、10年以上の取り組みを通じて培ったエネルギー制御技術・ノウハウと、当社の豊富な商品ラインナップを掛け合わせたトータルソリューションがオムロンでしか提供できない強みとなっている。